

# 平成 30 年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2018 年 12 月 21 日(金) 13:00~17:00  
 場 所: 兵庫県立大学 明石看護キャンパス (演習室 406)  
 テーマ: 第 2 回 つらさのスクリーニングと包括的評価 地域緩和ケアを考える  
 (人口 30 万人の地域でどのように専門的緩和ケアを組み立てるか?)  
 講 師: 木澤 義之先生(神戸大学大学院特命教授)  
 受講者: 8 名  
 アンケート回収:8 名 (回収率 100%)  
 主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療  
 人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子

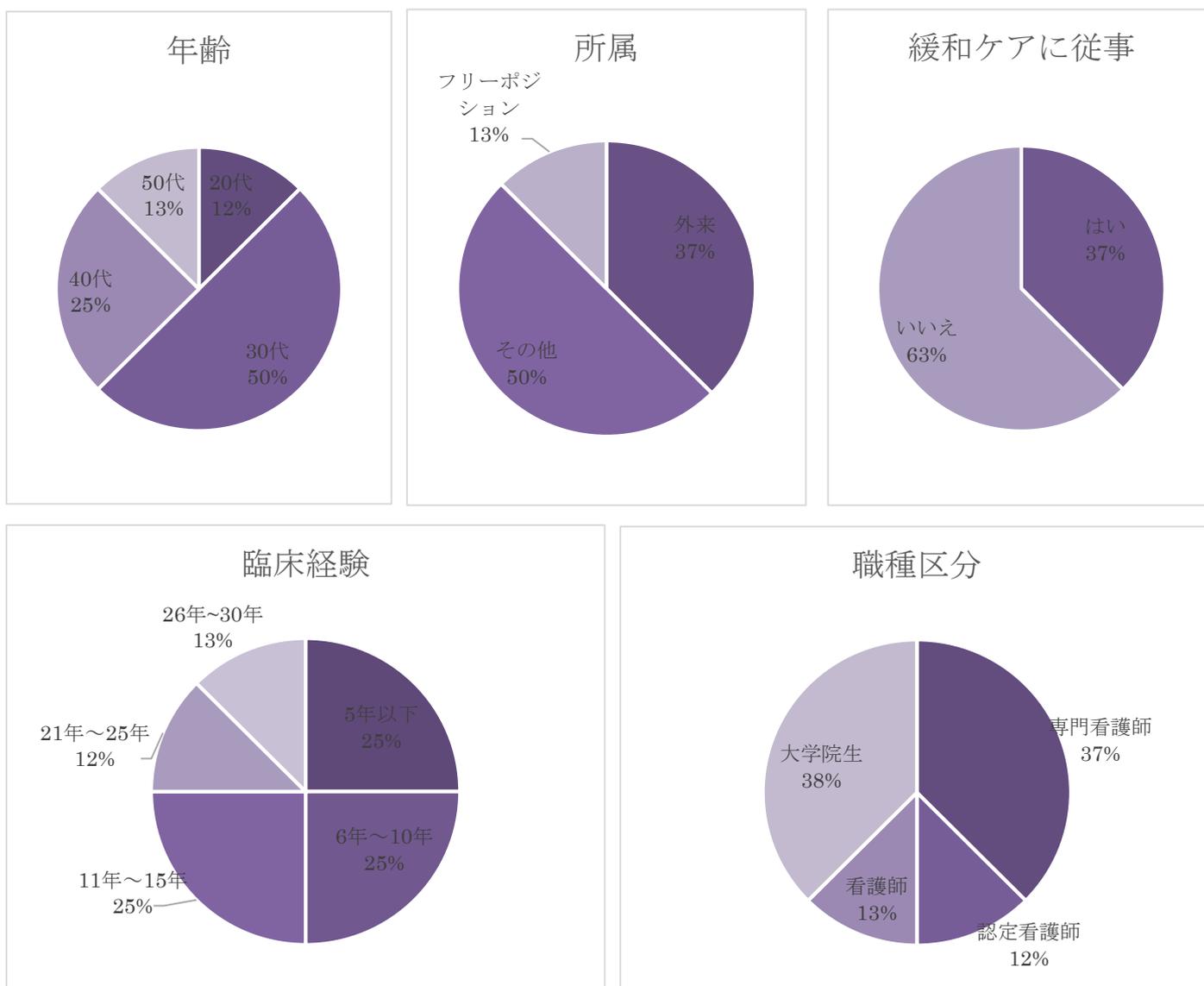


## <概要>

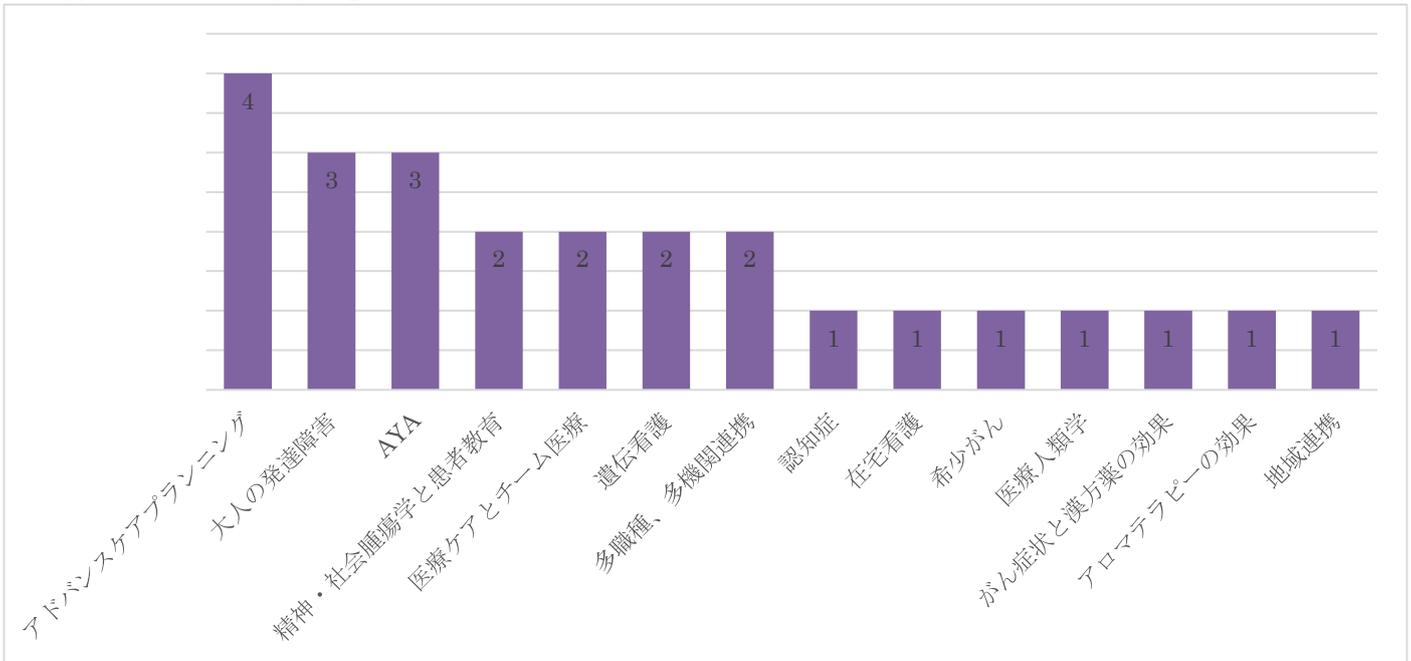
神戸大学大学院特命教授 木澤 義之先生から、包括的ケアのこれからの課題、症状マネジメント、スクリーニングなどについて神戸大学での状況を含めてお話があり、がん看護のカウンセリングにおける効果や課題についても詳細にお話しいただきました。その上で、地域緩和ケアを提供するために必要なシステムについてのディスカッションを行い、地域包括ケアについてカナダのシステムを例にご説明いただきました。また、57 歳子宮頸がん女性の事例における疼痛、抑うつなどに症状緩和の方法などについて意見を出し、緩和ケアが抱える効果や課題を幅広く考える時間となりました。

## <アンケート結果>

### ●参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・自分の理解できていなかったことは講義内で理解できたかと思えます。ジェネラリストなので包括的に見る努力をしたいと思います。
- ・戦略を踏む手順の大切さを学びました。
- ・システムを変えることの難しさとステップについて学ぶことができとても勉強になりました。とても面白い講義で視野が広がりました。
- ・スクリーニングの方法、視点について学ぶことができました。新しく行っていくためのアプローチの方法について実体験をもとに説明してくださり、とても分かりやすかったです。
- ・スクリーニングの導入に焦っていたのですが、少しずつ拡大していこうと思えます。医師やリンクナースを巻き込みながらやっていきたいと思えます。
- ・今後の日本の医療システムをどう整えていくのか、まずは自分の地域から。

▼がん患者の緩和ケアにおいて、今、最も強く感じている課題をお書きください。

- ・自己決定を行うにあたり Pt を知り自ら答えをだしてもらおうことが大切で様々なツールが知れてよかった。日常では Pt を総合的に見る必要があると思う。ジェネラリストの在り方を考えたい。
- ・地域包括ができていない、他院へ転院したらその後の患者がどうなっているかについて興味を持っていない現状がとても問題であると改めて感じました。
- ・患者の情報の連携、医療機関同士の連携、未受診患者の健康問題のスクリーニングなどたくさんの課題があると思えます。
- ・専門家が少ないことやそれぞれ連携が難しい。

